

進路だより

発行：平成25年10月30日

1 進研模試（総合学力テスト）について

11月2日（土）に4年生対象に進研模試（総合学力テスト）を実施します。会場は第2アリーナ、集合時間は8:25です。当日の日程などを掲載します。

（1）時 程

出欠確認	～	8:25
受験票記入	8:30～	8:50（20分）
国 語	8:50～	10:10（80分・100点）
数 学	10:20～	12:00（100分・100点）
昼休み	12:00～	12:50（50分）
英 語	12:50～	14:10（80分・100点）

※終了後自己採点を行います。

（2）実施範囲

国 語	必答問題	①現代文・評論 ②現代文・小説 ③古文
	次の問題より1題	④漢文 ⑤古文
数 学	必答問題	数と式（命題と集合を含む全範囲） 2次関数（2次不等式は除く）
	次の範囲より2題	2次関数（全範囲） 図形と数量（空間図形は除く） 場合の数（確率は除く） 図形の性質（空間図形は除く） 整数の性質（ n 進法は除く）
英 語	次の範囲より1題	①リスニング ②会話表現
	必答問題	③発音・アクセント ④文法・語法 ⑤長文読解 ⑥長文読解 ⑦表現力

（3）KUタイム（模試直後学習会）

①希望者は問題と解答を持って参加する。

11月5日（火）国語（17:00～18:00）

11月6日（水）英語（16:00～17:00）

11月7日（木）数学（17:00～18:00）

※これまでの学習内容をしっかり定着させるためには、校外模試を受験したあと、しっかりふり返るKUタイム（直後学習会）の方が実は大切です。

また、当日行う自己採点も非常に効果的です。

（4）今回の模試の目的

①後期課程での学習がどれだけ身についているかをチェックしましょう。

今回の模試では、後期課程進級後の実力がそのまま結果として出てきます。また、全国最大の母集団（2012年度受験者数48.1万人）ですから、「後期課程での学習」がどれだけ身についているかを全国規模で確認できます。

②4年生前半で見つけた課題がどれだけ解決できているかを確認しましょう。

7月の進研模試で見つかった国語・数学・英語の4年生前半の課題について、11月までにどれだけ解決できたかを今回の模試の結果で確認しよう。

③4年生後半の課題を発見して目標を設定しましょう。

模試で課題を発見して、対策が必要な分野を補強する……この繰り返しが確実に成績アップにつながります。今回の模試で4年生後半の課題を発見して、これからの学習目標を設定しましょう。

(5) 今回の模試活用の流れ

模試をうまく活用して、弱点を作らない！

自分の課題を発見し、克服するために模試を活用するのが、中等生としての学習スタイルの鉄則です。今回の模試は成績が変化しやすい時期に実施されるからこそ、弱点克服に活用して、成績アップにつなげましょう。

◎ 4年生模試の活用の流れ

進研模試 総合学力テスト・7月

進級後3か月での自分の学力位置を、全国レベルで測る模試

↓ 見つかった課題は、夏休みなどを利用して克服できましたか？

進研模試 総合学力テスト・11月

7月の進研模試で見つかった課題の克服状況を確認し、4年生後半の目標を設定する模試

今回受験する模試はこれ！	事前準備	今わかっている課題はしっかり学習しておく 本当の実力や課題を知るためには、今出せる最大の力を発揮する必要があります。 今までに受けた定期テストや7月の進研模試の結果を振り返り、課題だと思われるところは しっかり学習して模試に臨みましょう。
	受験中	最後の最後まであきらめない わからない問題も、粘り強く考え続けていれば解くきっかけをつかめることもあります。制限時間ギリギリまで絶対にあきらめず、実力を最後まで出しきることを心がけましょう。
	受験直後	答え合わせで課題発見 受験後、どう答えたかを忘れてしまわないうちに「解答解説」を使って答え合わせをしましょう。間違えた理由までしっかり確認することで、キミの弱点&取り組むべき課題が明確になります。
	答案・成績返却	結果を分析し、復習して実力アップ ●返却答案 どこでつまずき、どう間違えたのかを返却答案で細かくチェックしましょう。ここで再び「解答解説」を使って復習し、間違いの原因をなくすことで弱点が補強され、実力がアップします。 ●個人成績票 個人成績票を見れば、成績アップへの課題となる教科や分野が浮き彫りになります。課題解決のアドバイスも参考にして、一つひとつ弱点を克服していきましょう。

↓ 見つかった課題を、冬休みなどを利用して解決しましょう！

進研模試 総合学力テスト・1月

4年生の締めくくりに1年間の課題を総点検する模試

- 受験前に改めて11月の進研模試での課題を確認し、対策を立てる。
- その課題がどこまで克服できたかを、手ごたえと結果によって確認する。
- 不足分はさらに春休みの課題とする。